

『日・英語談話スタイルの対照研究—英語コミュニケーション教育への応用（シリーズ言語学と言語教育 35）』

津田早苗・村田泰美・大谷麻美・岩田祐子・重光由加・大塚容子 著 (2015)

ひつじ書房 316 ページ

山口 高領

早稲田大学

本書は、日本人に対する英語教育、特に英語での話し言葉によるコミュニケーション力向上への貢献を視野に入れ、母語や文化の違いによって、英語母語話者や日本語母語話者がどのような話し方をしているのかを明らかにしようといった問題意識を持っている研究者らによる著作である。本書の分析対象は、大きく捉えるならば、社会言語学、中でも語用論と思われる。ディスコースを分析し、そこから分析・考察を深めていくからである。しかし、本研究の研究対象は、これまでの日英対照についての語用論研究と異なるようだ。というのも、従来のような研究では、情報を伝えることや、感謝や謝罪を述べるといった発話行為を分析対象とすることが比較的多かったのに対して、母語話者がその習得過程で無意識に身につけた、「話し方に対する決まり事」を明らかにすることを目的としているからである。

本書は、そうした目的を達成するために、日本語母語話者間の日本語会話、英語母語話者間の英語会話、母語の異なる者同士の日本語会話や英語会話を分析対象とする。分析対象の会話データは、大学卒業以上の学歴を持つ男性で、日本語母語話者、アメリカ人英語母語話者、イギリス人英語母語話者、オーストラリア人英語母語話者から得られている。

分析の枠組みとして利用するのは、Gumperz (1982)の相互行為的社会言語学である。彼は、コミュニケーションの中で行われる相互行為の解釈はコンテクストに依存し、その解釈の鍵となるものを contextualization cue (コンテクスト化の合図) としている。これらの合図は、先に述べた、「話し方に対する決まり事」と密接に関係しており、そうした合図には、自己開示、あいづち、応答要求表現、他者修復、話題展開スタイル、ターンと発話量の分布といったものが含まれる。これら6つの合図は、第4章から第9章までのそれぞれの章にて、各著者が会話を分析する際の視点となっている。談話分析の手法に興味がある方にとっても参考になる章と思われる。第10章では、それまでの分析結果を大きくまとめ

て、英語会話と日本語会話の構造と特徴が示されている。第 11 章では、語用指標を英語教育に応用することについての論考が示される。これら最後の 2 章は、英語教育に携わっている方が、口頭での英語のやりとりについて、どのような指導をしたらよいのかを考えるヒントになると思われる。

紙幅の関係で、第 4 章の一部を紹介する。この章では、母語の違いによって「自己開示」がどのように違うのかを明らかにしている。まず、自己開示とは、ある人がその人の個人的な情報や考えなどを他者に知らせる行為であるという定義が行われる。その後、日本語母語話者と英語母語話者の間に見られる自己開示の違いが述べられる。日本語母語話者、アメリカ英語母語話者、イギリス英語母語話者、オーストラリア英語母語話者といった 4 集団が同一集団で母語を使った会話データを分析した結果、英語母語話者は、英語にて（マイナスの情報提示も含めた）自己開示を深く行うが、日本語母語話者は、日本語にて、名前や肩書などについては自己開示をするものの、英語の場合と比べて詳しい自己開示はしない（したとしてもマイナスの自己開示はしない）ことが多いことや、自己開示した人に対して掘り下げた質問をする英語会話に対して、自己開示情報に対して質問もコメントもなくただ頷く日本語会話といった対比があることなどが判明した。その後、こうした分析結果を踏まえて、自己開示の持つ機能とは何か、英語教育への示唆といった、考察やまとめが続く。

英語教育において、単語・文法・発音といった言語そのものの指導が多くの場合で必要であり続けるだろうが、これからますます英語でのインタラクションが求められるのであれば、本書で扱われている発話スタイルまでを時には考えさせる授業が必要なのではないかと感じた。異文化理解がますます求められる中、発話スタイルは一種の文化であり、本書で扱われた発話スタイルの差異の分析は、スタイルの異なる者同士に起こりうる、まさに英語によるコミュニケーション上の課題と受け止めることができるからである。なお、本書は、著者一同が受けた科学研究費助成事業（基盤研究(C)22520595「国際語としての英語の語用指標解明と英語教育への応用—英語会話ができる日本人の育成」）の成果をまとめたものである。

参考文献

Gumperz, J. J. (1982). *Discourse strategies*. Cambridge: Cambridge University Press.